

1 全国学力・学習状況調査について

- (1) 実施日 平成 29 年 4 月 18 日 (火)
- (2) 調査対象 小学校第 6 学年, 中学校第 3 学年
- (3) 調査の内容 教科に関する調査 (小学校: 国語, 算数)
(中学校: 国語, 数学)
児童生徒質問紙調査
- (4) 調査方式 悉皆方式

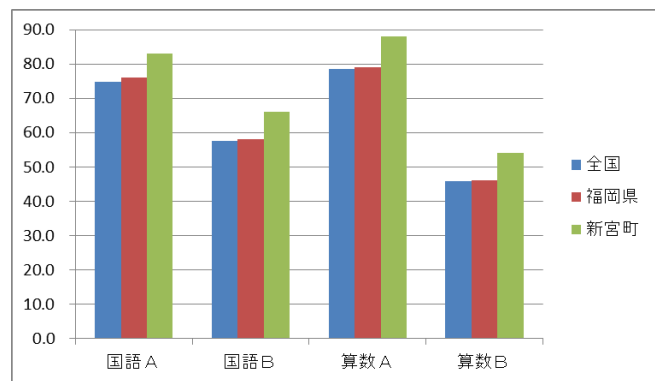
2 調査結果について

(1) 小学校の結果について

小学校については, すべての教科にわたって県平均及び全国平均を 8.1~9.4 ポイント上回っている。本年度は, 特に, 算数 A が高い傾向にある。

(2) 中学校の結果について

中学校についても小学校と同様, 本年度もすべての教科にわたって県平均及び全国平均を 5.6~10 ポイント上回っている。特に, 昨年度同様国語 B が高い傾向にある。



(3) 全体の結果についての考察

各学校での自己肯定感や規範意識を高める日常の学習指導や学年経営・学級経営を基盤とした教育活動が展開された取組の成果が現れている。また, 小中が連携した学力向上プロジェクト会議, 家庭と連携し「家庭学習のすすめ」を活用した家庭学習強化週間の取組等が成果として現れてきつつある。さらに, 正答率が約 3 割を下回る児童生徒数は, 全国平均と比べると少ない傾向にある。今後も, 日常の授業改善に取り組むとともに, 反復学習 (ドリル学習), 補充的な学習の実施, 少人数指導や学習スキルタイムの設置など, 指導内容や形態の工夫が求められる。なお, 小中学校ともにすべての教科で県平均及び全国平均を上回る結果が継続してみられており, 今後も引き続き課題を明確にした取組を推進していく必要がある。

(4) 児童生徒の質問紙の回答結果の考察

質問紙調査については, 「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する質問紙調査が実施され, おおむね良好な結果であった。平日の家庭学習について, 「1 時間以上学習している」児童生徒の割合は, 県・全国平均に比べて高い状況であり, 休日の家庭学習についても, 児童生徒の割合がともに県・全国平均に比べて高く, 平日休日ともに, 家庭学習に取り組んでいることが見とれる。しかし, 「全く勉強していない」答えている児童生徒もおり, 基本的な生活習慣・学習習慣づくり推進事業「家庭学習のすすめ」を活用した家庭学習強化週間の取組の充実と併せて, 児童生徒の家庭学習の習慣化と定着させる支援体制をさらに整備する必要がある。